1　松江圏域（農業・農村）

（1）現状と課題

都市近郊、平坦農村、中山間地域が混在し、水稲を中心とした農業が営まれていますが、農家数、農業産出額は年々減少しており、都市近郊の立地条件を活かした農業振興が必要となっています。

松江地域では、これまでのプロジェクト展開により、直売所やインショップ等の販売体制が整備され地産地消の取組が活発化し、産直販売実績は右肩上がりとなっていますが、栽培者の高齢化、施設の老朽化等により地域特産物の栽培面積、出荷量等が伸び悩んでいます。ぼたんについては、新設した冷蔵施設を活用し、最大の需要期である年末から正月にかけて開花調整した抑制苗の積極的な販売を実施していますが、生産者の確保と安定的な供給体制の再構築が今後の課題となっています。また、平成23年8月1日の松江市と東出雲町との合併を契機に、古くから栽培されている柿と干拓地を中心に栽培され評価を得ているキャベツの産地強化が期待されています。

安来地域では、これまでのプロジェクト展開により、いちご・ぶどう・花き等の地域特産物の共同施設等が整備されるとともに、新規就農者が着実に増加してきています。今後は施設の効果的な活用と新規就農者の技術の定着化販路開拓等の経営安定化を図るとともに、新設の産直施設等を中心とした更なる産地強化が課題となっています。また、大区画ほ場での農業生産法人等による大規模営農も期待されています。

（2）重点的取組の展開方向

① 担い手の育成

地域農業の実情を踏まえ、認定農業者や集落営農組織の育成を重点的に推進します。特に、担い手が少ない中山間地域では、農産物栽培のグループ化や複数集落が連携した組織化を推進します。また、Ｕ・Ｉターン者の受け入れや就農後の経営安定支援体制の整備を図り、新規就農者を積極的に育成します。さらに、中海干拓地の広大な農地を活かして、農業参入企業等の新たな担い手の確保を図ります。

② 生産振興

県内最大消費地の消費者ニーズを的確にとらえ、新鮮で環境にやさしい農産物等を安定供給するため、ＧＡＰ*の推進等多様な生産・販売体制を整備し、出荷量と品質の向上を進めます。

地域の代表的な特産物であるキャベツ、ぼたん、柿、いちご、花き等はマーケティングに基づいた生産・販売体制の整備を行うとともに、生産技術の高度化や販路の拡大を図ります。また、ぼたんについては、生産者の確保や作業の分業化による生産量の維持と輸出等による販売額の向上を目指すとともに、いちご、花き等については、施設の有効活用と新規就農者及び認定農業者の育成を一体的に推進し、産地の活性化を目指します。

③ 生産基盤

生産性の高い農業へ転換を図るため、担い手育成確保に資するほ場整備等の生産基盤や効率的な流通基盤の整備を進めます。特に安来地域では、大区画ほ場での農業生産法人等による大規模営農の展開を推進します。

また、ため池等の整備と農地・水保全管理支払交付金*等を活用した農業用施設の維持・改修を推進します。

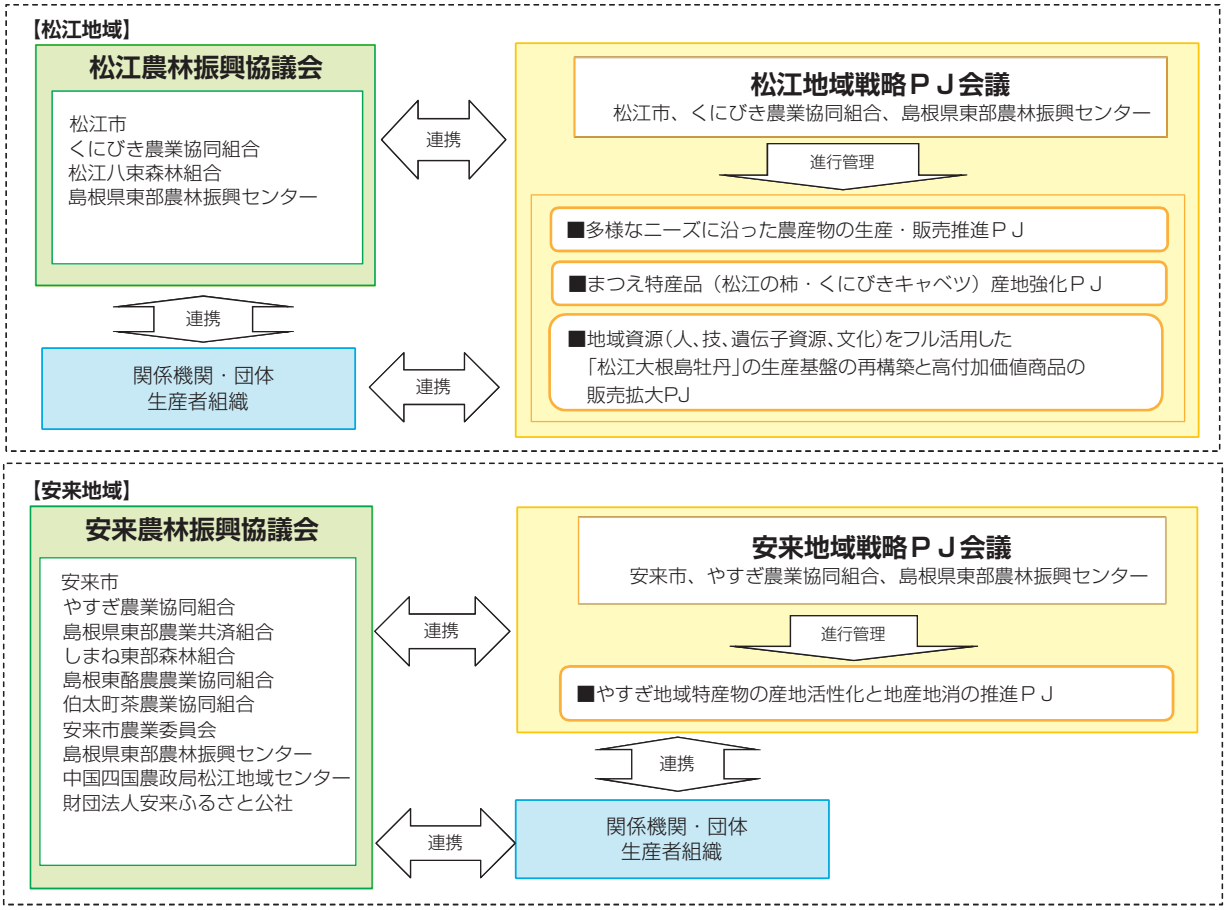
④ 地域活性化

多くの消費・交流人口を抱える立地条件や女性・高齢者等の活力を活かした地産地消活動の拡大や「農水商工連携」「６次産業化」等により地域農業の活性化を図ります。また、中山間地域の農地保全や集落機能の維持を図るため、グループ化による農産物栽培出荷や複数集落が連携した組織化を推進し、安心して、いきいきと暮らせる地域社会を目指します。

（3）主な指標の将来見通

項　目		H22 → H27	備　考
1　耕　地　利　用	①担い手への集積面積(ha)	2,914 → 3,205	県農業経営課
2　農業生産構造	①認定農業者数（人）	230 → 240	県農業経営課
	②集落営農組織数（組織）	78 → 110	県農業経営課
	③新規就農者数（人／年）	21 → 25	県農業経営課
3　主要品目の生産（百万円）	①産直販売額	649 → 700	JAくにびき取扱
		213 → 400	JAやすぎ取扱
	②西条柿販売額	88 → 100	JAくにびき取扱
	③ぼたん販売額	100 → 170	JAくにびき取扱
	④キャベツ生産面積(ha)	36 → 40	JAくにびき取扱
	⑤いちご販売額	210 → 230	JAやすぎ取扱
	⑥花き販売額	164 → 200	JAやすぎ取扱

（4）推進体制



（5）地域プロジェクト

① 多様なニーズに沿った産直農産物の生産・販売推進プロジェクト
② まつえ特産品（松江の柿・くにびきキャベツ）産地強化プロジェクト
③ 地域資源（人、技、遺伝子資源、文化）をフル活用した「松江大根島牡丹」の生産基盤の再構築と高付加価値商品の販売拡大プロジェクト
④ やすぎ地域特産物の産地活性化と地産地消の推進プロジェクト

松江－1　多様なニーズに沿った産直農産物の生産・販売推進プロジェクト

松江圏域　（松江市）

1　目的と取組

目　的

新鮮で安心できる地場産農産物に対する需要が拡大している。こうした動きに対応するため、これまでも産直インショップの開設やＰＯＳシステムの導入等により消費者動向等を把握しながら産直を推進してきた。新鮮と安全・安心を求める消費者の潜在的志向は根強く、産直は、県内最大の消費者人口を抱える松江圏域の農産物販売の大きな特徴となってきた。

これまでも、産直を志向する新規生産者の確保、生産者のレベルアップ、エコファーマー専用インショップの開設等の取組を進めてきたが、生産者数は微増にとどまっており、インショップにおける品目やロットが不足している。また、地元飲食店等への供給体制が不十分なこと、新たな地域特産物についての要望が強まっていることなどから、さらなる販売量の確保、新鮮情報の提供や新規の地域特産物生産の取組推進等による販売力の強化が課題となっている。

そこで、消費者に適切な情報を発信しながら、安全・安心で新鮮な地元農産物の生産と供給を拡大しつつ、エコ農産物に代表される環境にやさしい農業の認知度アップを図るとともに、地元飲食店や学校給食等の要望に応えるなど消費者の多様なニーズに沿った少量多品目の生産・販売の拡大を図る。

課　題

■地元産品の販売を拡大する上で、これまで以上に農産物の「新鮮・安全・安心」の情報を消費者に提供できるしくみづくりが必要であり、また、環境にやさしい農業を推進する上では、エコ農産物等の環境にやさしい農法で生産された農産物の販売力及び生産の強化と消費者への理解促進を同時に推進することが必要

■地元産直店舗においてこれまで地元で生産されていなかった農産物のニーズがあり、ショウガや枝豆等新規の地域特産物の生産に向けた取組が芽生えつつあり、技術支援等によりこれらの地域特産物の生産性向上と販売定着が必要

■農産物の生産を拡大する上で地元飲食店や学校給食等での地元産品の一層の活用推進と定着が必要。

取　組

○新鮮で安全・安心な農産物の生産と販売の拡大･強化

ＰＯＳシステムを活用した新鮮情報発信のしくみを整えるとともに、美味しまね認証の取得や産直店舗の改装･改築により、新鮮で安全安心な農産物の生産と販売の拡大･強化を図る。

○環境にやさしい農業の推進と消費者への理解浸透

エコロジー農産物の販売支援やエコファーマー専用産直インショップへの出荷誘導等によりエコファーマーの拡大を図るとともに、出前授業等の機会を捉えて消費者への理解促進を図る。

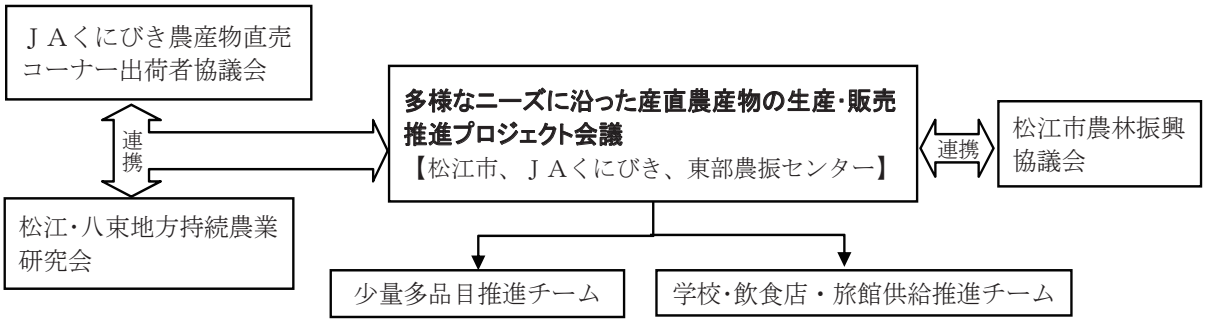
○新たな特産品の生産と直販の強化

ＪＡ支所単位で新たな作物の導入と契約販売や産直販売等を進める、新たな特産品の定着・拡大を図る。

○公共機関、旅館等への地場農産物の供給拡大

学校給食や飲食店・旅館等での地場農産物の利活用をすすめ、その供給量の拡大を図る。

2　推進体制



関係･連携するプロジェクト

○まつえ特産品（松江の柿・くにびきキャベツ）産地強化（松江）

○「美味しまね認証制度」推進（県）

3　取組項目と具体的行動計画

取組項目	具体的行動	主な実施主体	H24	H25	H26	H27
安全で安心できる農産物の生産・販売の拡大・強化	安全・安心・新鮮情報を伝えるしくみづくり	JAくにびき	→	→	→	→
	美味しまね認証の推進	東部農振C	→	→	→	→
	産直店舗の増設・改装	JAくにびき	→	→	→	
環境にやさしい農業の推進	エコファーマーの認定推進と栽培技術指導	東部農振C	→	→	→	→
	エコロジー農産物の販売支援	東部農振C	→	→	→	→
	エコロジー農産物のファンの拡大	東部農振C 松江市	→	→	→	→
特産品の生産と販売の強化	新規作物の導入推進	JAくにびき 東部農振C 松江市	→	→	→	→
	新規作物の販売強化	JAくにびき	→	→	→	→
公共機関、旅館等への地場農産物の利用拡大	飲食店等への地場農産物供給拡大	JAくにびき 東部農振C 松江市	→	→	→	→
	学校給食への地場農産物供給拡大	JAくにびき 松江市	→	→	→	→

4　成果指標（数値目標）

項　　目	現況(H22)		目標(H27)
産直販売高	641百万	→	700百万

プロジェクトの概要

地場農産物への多様なニーズ
- ●品質　●品目　●量
- ●価格　●品揃え
- ●生産地　●鮮度
- ●栽培方法　●安全・安心
- ●長くなった営業時間
- ●飲食店からのニーズ増

⇒

多様なニーズ対応プロジェクト

生産の強化対策
- ●生産者向け販売情報提供システム導入
- ●新規作物導入推進
- ●エコファーマーの認定推進
- ●集落営農での特産品生産の推進

販売の強化対策
- ●販売店舗の増改築
- ●環境にやさしい農業や地域農業ファンの拡大
- ●飲食店等とのマッチング
- ●消費者向け情報提供システム導入

- ●新鮮情報等を伝えるしくみづくり
- ●環境にやさしい農業の推進と地域農産物・地域農業ファンの拡大
- ●地域の特色を生かした新規特産物の導入推進
- ●地元飲食店や学校給食への地場農産物の供給拡大

⇒

少量多品目生産地域の特色を生かした地産地消の拡大

松江－2 まつえ特産品（松江の柿・くにびきキャベツ）産地強化プロジェクト

松江圏域（松江市）

1　目的と取組

目　的

松江市と東出雲町との合併を契機として、古くから松江、東出雲の全域で広く栽培されている伝統的な果樹「西条柿」と、中海揖屋干拓地を中心として市場評価を得ている「くにびきキャベツ」について、新生松江市の特産品として位置付け、新たに生産から加工販売までの一貫した産地強化を図る気運が高まってきている。

西条柿は、生果では渋抜き果、枝付き渋果、加工品としては、あんぽ柿、『畑ほし柿』をそれぞれが組織を設けて生産と共販を行ってきたが、近年、生産者の高齢化、後継者不足や低単価により、無管理の放任園が増加し出荷量が減少してきている。そのため、西条柿を『松江の柿』として位置づけ、生産者と関係組織が一体となり、松江を代表とする特産品（果樹）として生産基盤の強化を進め、地元はもとより瀬戸内を中心に関東地区等安定的な販路を拡大するとともに、東北、北海道地域まで販路開拓する。さらには、新しい加工品の開発、牡丹とともに輸出による有利販売や観光資源としての活用も進め、魅力のある特産果樹の基盤形成を目指す。

キャベツは、量・質両面で市場の信頼確保に取り組み、干拓地を中心に年々栽培面積を拡大しているが、近年生産者の高齢化等により産地の維持が困難となってきている。そのため、新規栽培者を育成し、農業参入企業や集落営農組織も含めた生産基盤を整備するとともに、GAP（美味しまね認証）にも取り組み産地の強化を目指す。

課　題

■「松江の柿」は、生産面において集出荷形態の統一化による出荷量の拡大や無管理園の拡大防止策が、また流通・販売面においては安定的販路の拡大と新規市場開拓が必要であり、観光資源としての活用等の地域振興策との連携も視野に入れ産地体制を強化する必要がある。

■「くにびきキャベツ」は、これまでに確立してきた産地基盤をベースに、新規栽培者の確保や栽培面積の更なる拡大、経営安定のための多様な販売展開など総合的な産地戦略を着実に進めていく必要がある。

取　組

○「松江の柿」産地強化
- 新規栽培者確保、既存生産組織の再構築と作業受託体制整備による生産体制や基盤を整備する。
- 生果・干し柿（ころ柿）・あんぽ柿のセット商品等による有利販売と加工品の新商品開発を進める。
- 既存の販売先をはじめ、関東以北への安定的販路の拡大と、海外も含む新規市場開拓を取り組む。
- 古木や伝統的な干し柿産地等を観光資源としての活用を推進する。

○「くにびきキャベツ」産地強化
- 新規入植者をはじめ栽培後継者も含む新規栽培者の確保・育成を行う。
- 生産基盤の整備と機械化の推進による作業量の軽減と作業効率向上のための栽培指導を強化する。
- 市場出荷の拡大と加工用契約等への供給による安定的販路確保を図る。

2　推進体制

『まつえ特産品（松江の柿・くにびきキャベツ）産地強化』プロジェクト
（島根県東部農林振興センター、松江市、くにびき農業協同組合）

「松江の柿」推進チーム
連携
まつえ西条柿生産振興協議会
JAくにびき西条柿協議会
畑ほし柿生産組合
JAくにびきあんぽ柿部会

「くにびきキャベツ」推進チーム
連携
松江八束くにびきキャベツ部会

関係・連携するプロジェクト

○多様なニーズに沿った産直農産物の生産・販売推進（松江）
○地域資源（人、技、遺伝子資源、文化）をフル活用した「松江大根島牡丹」の生産基盤の再構築と高付加価値商品の販売拡大（松江）
○「美味しまね認証制度」推進（県）
○園芸産地の再生（県）
○国営開発農地の有効活用（県）

3　取組項目と具体的行動計画

取組項目		具体的行動	主な実施主体	H24	H25	H26	H27
松江の柿産地強化	生産体制・基盤の整備	新規栽培者の確保	松江市、東部農振C		→	→	→
		栽培指導	JAくにびき、東部農振C	→	→	→	→
		生産組織構築	JAくにびき	→			
		加工用施設等整備	JAくにびき、松江市	→	→	→	→
		作業受託等による生産体制整備	松江市、東部農振C、JAくにびき		→	→	→
	新商品開発による有利販売	商品開発	JAくにびき	→	→	→	→
	販路拡大と新規市場開拓	安定的販路確保	松江市、東部農振C、JAくにびき	→	→	→	→
		輸出等による新規市場開拓	JAくにびき、松江市		→	→	→
	観光資源としての活用推進	古木や干し柿産地の観光資源活用	JAくにびき、松江市		→	→	→
くにびきキャベツ産地強化	生産体制・基盤の整備	新規栽培者の確保	松江市、東部農振C、JAくにびき	→	→	→	→
		生産機械等整備	松江市、東部農振C、JAくにびき	→	→	→	→
		栽培指導	松江市、東部農振C、JAくにびき	→	→	→	→
	安定的販路確保	市場出荷の安定拡大	JAくにびき、松江市	→	→	→	→
		加工契約等への供給	JAくにびき、松江市	→	→	→	→

4　成果指標（数値目標）

項目		現況（H22）		目標（H27）
新規栽培者数　（累計）	西条柿	0人	→	5人
	キャベツ	0人	→	5人
西条柿販売金額（JA取扱額）		88百万円	→	100百万円
キャベツ生産面積		36ha	→	40ha

プロジェクトの概要

現状と課題

【現状】
○生産者の高齢化
○生産基盤の弱体化
○出荷量の低迷

【課題】
○栽培者の確保
○集出荷体制の整備
○経営安定のための有利販売

プロジェクトの役割

○関係機関・団体の連携
○生産者組織との連携
○栽培指導体制の強化
○生産加工販売一貫体制の構築

【具体的手段】
○新規栽培者の育成
○生産基盤整備
○新商品開発
○安定的販路拡大
○観光資源活用

目指す姿

まつえ特産品（松江の柿・くにびきキャベツ）の産地強化

松江－3　地域資源（人、技、遺伝子資源、文化）をフル活用した「松江大根島牡丹」の生産基盤の再構築と高付加価値商品の販売拡大プロジェクト

松江圏域（松江市）

1　目的と取組

目　的

従来の苗輸出に加え春節時期（1月下旬～2月上旬）にぼたん需要の高い台湾において、輸出した抑制苗を現地農場で開花するように生育してから販売するビジネスモデル構築やプレ花博・花博への参加、展示会の実施など積極的なPR活動に取り組んできた。一方、新規栽培者の確保やぼたん苗の島外生産、3基目の冷蔵庫の整備など産地体制の強化を図ってきたが、生産者の高齢化はさらに深刻となっており、生産量の停滞を招いている。

そこで、地域資源をフル活用して、新規栽培者の更なる掘り起しや作業の外部委託体制の整備等による生産基盤の再構築を図るとともに、台湾でのビジネスモデルの確立や国内での販売対策を強化し、高単価での取引可能な抑制苗を中心に販売の拡大を目指す。

課　題

■生産者の高齢化に伴い生産が停滞しており、生産者の減少に歯止めをかけ生産量を確保するためには、新たな栽培者の掘り起こしや作業の外部委託、苗の島外生産体制の整備を通じて生産の合理化を推進するなど生産体制の再構築の取組が不可欠。また、栽培面積減少の一因となっている連作障害対策に継続的に取組むことが必要である。

■付加価値の高い抑制苗の台湾への輸出については、春節需要に応じた開花調整システムの確立や、受注に応じた生産を推進し台湾でのビジネスモデル確立が必要。H21年度からトライアル輸出を開始しているロシアについては、出荷時期を拡大し普通苗に加え、促成苗等の輸出を推進する取組が必要である。また、海外との直接取引の拡大や国内での鉢物展示会、商談会等を通じた抑制ぼたん鉢の販路拡大も必要である。

取　組

○ぼたん生産体制の再構築

新規栽培者の掘り起こしや小規模生産者のグループ化等による栽培者の確保と技術習得の支援を図るとともに、作業の外部委託体制の整備や委託栽培による苗の島外生産を推進する。

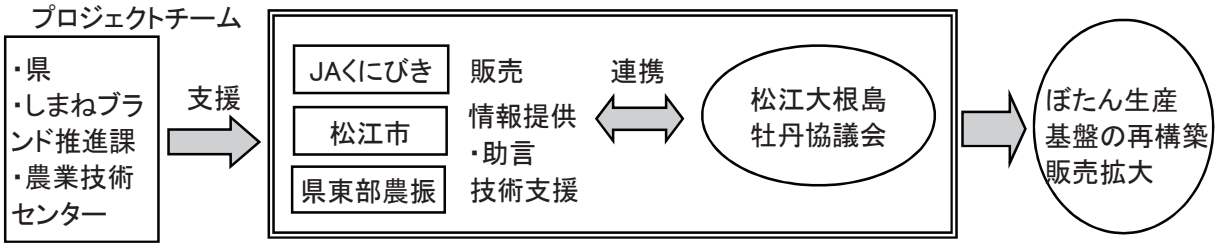
また、品種データベース構築、栽培マニュアルの作成と品種登録を推進する。さらに、ほ場の土壌条件等の改善やセンチュウの防除対策を継続的に実施する。

○付加価値の高い抑制苗等の販売拡大

受注生産の推進等による台湾への抑制苗の輸出量の拡大や、ロシアへの輸出手続き、輸出ルート及び需要品種の調査に基づく輸出量の拡大を図る。

また、直接取引の拡大と新技術を活用した切花や苗の輸出を推進するとともに、国内での鉢物展示会、商談会等による販売促進活動の強化を図る。

2　推進体制



関係・連携するプロジェクト

○まつえ特産品（松江の柿・くにびきキャベツ）産地強化（松江）

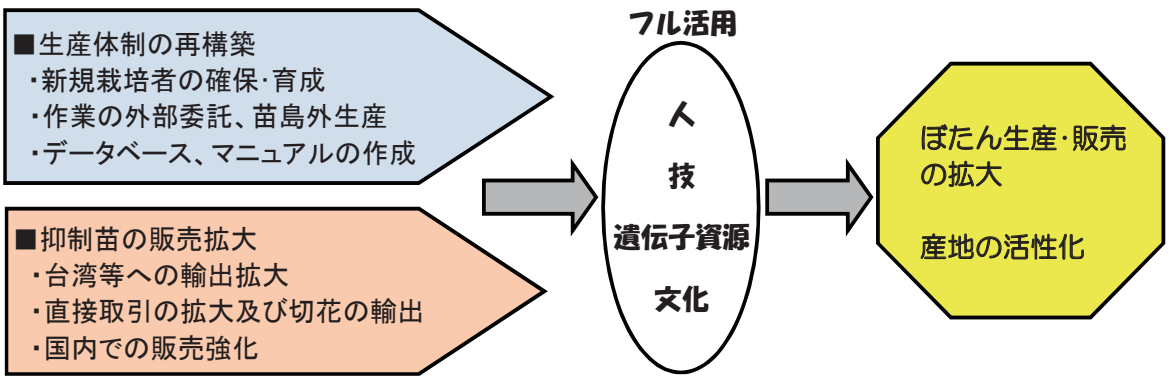
3　取組項目と具体的行動計画

取組項目	具体的行動	主な実施主体	H24	H25	H26	H27
ぼたん生産体制の再構築	新規栽培者の掘り起こしと技術習得支援	松江市、JAくにびき東部農振C	→	→	→	→
	作業の外部委託体制の整備と苗の島外生産の推進	松江市、JAくにびき東部農振C	→	→	→	→
	小規模生産者のグループ化	松江市、JAくにびき東部農振C	→	→	→	→
	品種データベースの構築と栽培マニュアルの作成	松江市、JAくにびき東部農振C	→	→	→	→
	センチュウ対策の実施	JAくにびき、東部農振C	→	→	→	→
	緑肥作物の栽培等による土壌改良	松江市、JAくにびき東部農振C	→	→	→	→
付加価値の高い抑制苗等の販売拡大	台湾の春節需要に応じた抑制苗(鉢)の輸出	JAくにびき、松江市島根県	→	→	→	→
	ロシアへの輸出拡大	JAくにびき、松江市島根県	→	→	→	→
	直接取引の拡大及び切花の輸出	JAくにびき、松江市島根県	→	→	→	→
	国内向け牡丹鉢販路拡大	JAくにびき、松江市島根県	→	→	→	→

4　成果指標（数値目標）

項　　目	現況(H22)		目標(H27)
台湾の春節需要に応じた輸出苗数(抑制苗)	621本	→	5,000本
ロシアへの輸出苗数(普通苗及び促成苗)	1,500本	→	5,000本

プロジェクトの概要



松江－4 やすぎ地域特産物の産地活性化と地産地消の推進プロジェクト

松江圏域（安来市）

1　目的と取組

目　的

これまで、「園芸産地活性化のための担い手育成」プロジェクトとして、いちご・花き・ぶどうの担い手育成と生産振興に取り組んだ結果、この4年間で新たに18名が就農し、当産地生産者の大きな刺激となり、さらに積極的な販売促進による販路拡大が図られつつある。

今後、こうした取り組みを更に進め、やすぎ特産物の知名度を向上させ、販路拡大に結びつけるとともに生産物の高品質化と安定供給ができる産地づくりを目指す。

また、H23年4月にオープンした道の駅での直売店舗（なかうみ菜彩館）が好調なスタートをきり、直売品の販路が大幅に広がっている。今後、現行の地産地消体制の抜本的な見直しを図りながら、顧客ニーズにあった生産物が計画的に生産され、円滑に集荷・販売できるようなシステムの構築を目指す。

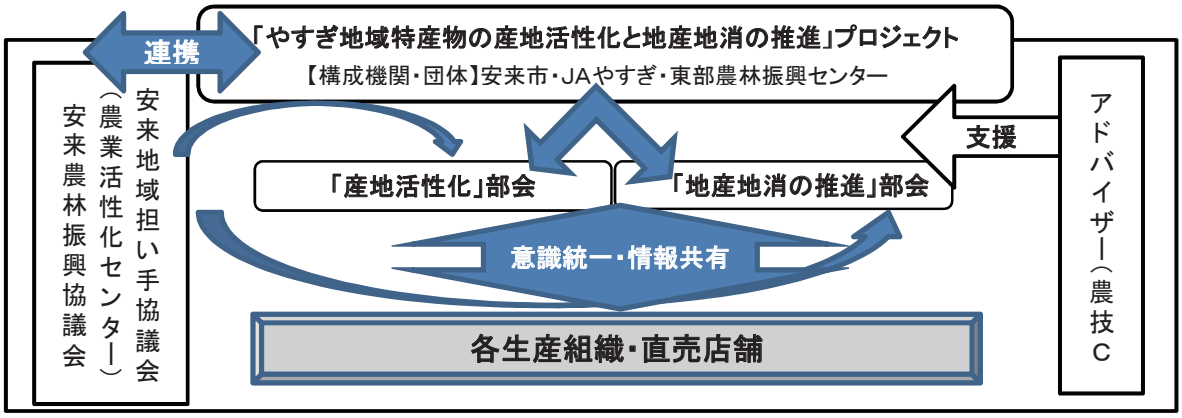
課　題

■安来地域の特産物として生産振興に取り組んできたが、近年、産地間競争がますます激しくなり、今後の生産振興には明確な販売戦略とその実践が不可欠である。
■病害等の発生や高齢化の進行により、生産安定と規模拡大が進んでいない一方、徐々に新規就農者が参入しており、濃密的な指導による早期の経営安定が必要である。
■JA直売販売額は大きく伸びているが、品目や量に偏りが出たりと安定した生産出荷ができていない。
■直売店等については継続した顧客確保のため、消費者へのアピールが必要である。
■直売生産者及び店舗からの声の共有や効率的なPOSシステムの検討が必要である。

取　組

○やすぎ特産物の販売戦略の明確化による知名度アップと体制整備
　差別化や消費PR等の明確な販売戦略を生産者と関係者が共有して、積極的な取組を実施する。
○やすぎ特産物の生産体制のステップアップと生産安定
　技術指導を充実させつつ、当面の生産課題と新規就農者の早期経営安定のための体制を強化する。また、生産過程の共同化を進めるとともに労力補完の体制づくりを担い手協と連携して確立する。
○直売品の安定した生産出荷体制の構築
　生産計画の作成や小グループ養成による生産体制の整備を実施することにより、計画的な生産出荷へ取組む。また、併せて技術アドバイザー等による指導体制の再整備を行い、生産安定を図る。
○地元産品を利用した特徴のある店舗づくり
　豊富な品揃えと特徴ある産品導入等により消費者にアピールしつつ魅力ある店舗づくりに取組む。
○直売品の生産から販売までの情報共有と共通認識が図れるシステムづくり
　効率的なPOSシステムの検討導入をするとともに、情報共有の体制を構築する。また、新たな加工品開発と生産者も利用できる加工場の整備を行う。

2　推進体制



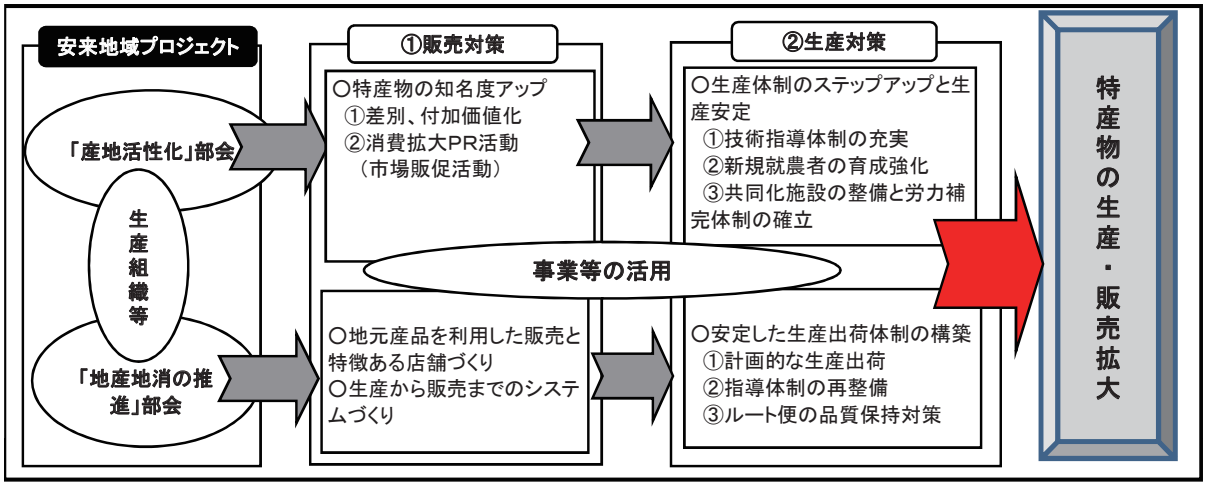
関係・連携するプロジェクト

○園芸産地の再生（県）

3　取組項目と具体的行動計画

取組項目		具体的行動	主な実施主体	H24	H25	H26	H27
やすぎ特産物の産地活性化	やすぎ特産物の販売戦略の明確化による知名度アップと体制整備	販売戦略の策定と周知	安来市、JAやすぎ、東部農振C安来支所	→	→		
		差別化・付加価値化商品等の開発	安来市、JAやすぎ、東部農振C安来支所	→	→	→	
		消費拡大PR活動	JAやすぎ	→	→	→	→
	やすぎ特産物の生産体制のステップアップと生産安定	技術指導体制の充実による生産振興	安来市、JAやすぎ、東部農振C安来支所	→	→		
		共同化施設の整備と労力補完体制の確立	JAやすぎ、担い手協	→	→	→	
		新規就農者の育成確保の強化	担い手協、生産組織	→	→	→	→
		集出荷方法・施設の改善による所得向上	JAやすぎ	→	→		
地産地消の推進	直売品の安定した生産出荷体制の構築	計画的な生産出荷への取り組み	安来市、JAやすぎ、東部農振C安来支所	→	→	→	
		栽培技術の指導体制の再整備	JAやすぎ、東部農振C安来支所	→	→	→	→
		ルート便で出荷体制の確立	JAやすぎ	→	→		
	地元産品を利用した特徴ある店舗づくり	直売品販売額の向上	JAやすぎ	→	→	→	→
		加工品等特徴ある産品づくり	安来市、JAやすぎ、東部農振C安来支所	→	→	→	
		魅力ある直売店舗づくり	JAやすぎ	→	→	→	→
	直売品の生産から販売までの情報共有と共通認識が図れるシステムづくり	情報等の共有体制の構築	安来市、JAやすぎ、東部農振C安来支所	→	→	→	→
		継続性のあるイベントの企画	安来市、JAやすぎ	→	→	→	→

4　成果指標（数値目標）

項　　目	現況（H22）		目標（H27）
JA取扱額（いちご、花き）	374百万円	→	430百万円
JA直売販売額	213百万円	→	400百万円

プロジェクトの概要